



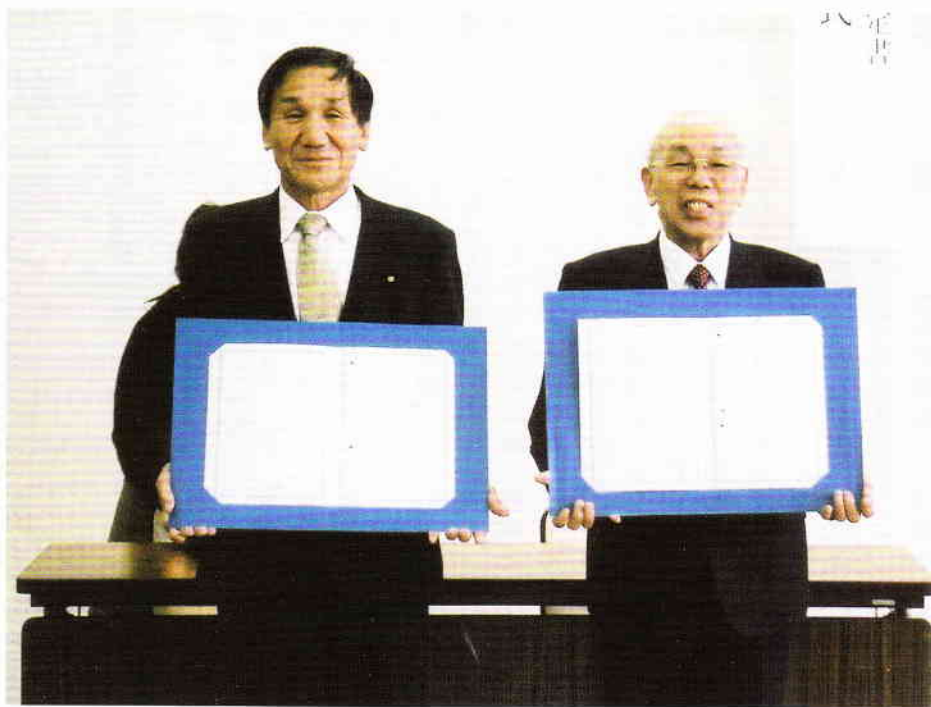
陽風園だより

2008年12月
第52号

発行 社会福祉法人陽風園 金沢市三口新町1丁目8番1号 ☎ (076) 263-7101

陽風語録

人間一人一人は みんなひよわな
存在です。だからこそ寄り添って
支え合って 生きていくのです。



災害時相互応援協定調印式

竹のようになやかに そして 強く

理事長 奥

清

このたび、内川校下町会連合会と陽風園の三施設（第二万陽苑・第三万陽苑・ハビリポート若葉）が、災害時相互応援協定を結び、協力救援することとなり、有縁の中で心通わせ支え合えることを喜んでいます。

子供の頃、地震が発生したら竹林へ逃げ込めば安全だと親に教えられたことを思い出しました。内川地区には竹林が多く災害の少ない安全な地域ですが、これを機会にして双方連絡を密にし、災害時の対応に如何なきよう努めていきたいと考えています。

内川地区に多い竹は生長が早く柔剛を併せ持つ理想的な建築資材です。中国を旅しますと高層建築の足場によく竹材が利用されています。日本でも身近にある竹の特性を活かして道具として上手に利用しています。物干し竿や釣り竿は竹の強靱性と反発力を、計算尺や物差しは竹の低伸縮性を、茶筌や竹籠は柔軟性を利用しています。更に、竹には自浄作用があるのです。竹林の中で動物が死んでも腐らないと言われますし、竹林の中で糞をしても匂わないと聞いています。昔の人が旅に出掛ける時、竹の皮でおむすびを包み、竹筒を水筒代りにして水を入れ長旅をしたものです。これらは竹から発散する揮発成分の自浄作用によるもので、竹の含有成分の中に抗菌性物質や異臭を分解する物質が含まれているからだといわれています。

竹林に囲まれた静かな清らかな環境の内川地区と災害協定を結び、施設に入所している方々が安全に安心して生活し、豊かな自然や優しい人達と関わりを持ち、竹のようになやかに、そして強く長寿でありますように念じています。

向陽苑の現状について

常務理事兼向陽苑施設長 池之上 幸 男

縁あって私がここ向陽苑へ勤めさせていただくようになり一年半余りが経ちました。出勤初日には、大小の庭樹が植えられた前庭の落ち着いた雰囲気に、陽風園の歴史の重みを感じた次第であります。

慣れない最初のうちは向陽苑の中を回って方角を勘違いすることもあり、施設の広さと二百四十人という利用者の数の多さを実感しました。廊下で出会った方に緊張気味に挨拶をしたら、当惑した表情を見せた方もありましたがそれも当然で、見慣れない、あまり人相の良くない男から声を掛けられ驚かれたのでしょうか。しかし日が経つに連れ、明るい笑顔を見せていただけるようになりました。

今では、多くの方と談話室や廊下のベンチなどで言葉を交わすようになり、時には含蓄あるお話を聞かせて貰ったり、私の健康を気遣う温かい言葉をいただくこともあります。職員が親切にしてくれたと感謝されると嬉しくなります。中には悩みを聞いて欲しいという

方もあり、即アドバイスできないことも多いのですが、話を聞かせて貰えることは有難いと思っています。このように多くの方と知り合うことができたのもなにかの縁、このふれあいを大切にしたいと思う日々であります。

さて、ここへ勤める前は養護老人ホームの利用者はほとんどが元気な方と思っていましたが、高齢化が進み、八十歳以上の方、特に九十歳代の方が増え、ADLの衰えにより介護・介助を必要とする方も増えていきます。参考までに平成十九年度のデータと十年前の平成九年度のものとを比べて見ますと、平均年齢は平成九年度の七九・五歳から十九年度は八一・四歳へ二歳の上昇ですが、九十歳代の割合をみると七%から十七%へと大きく増加しています。

それに伴う日常生活状況の変化は、歩行不能の方の割合が〇・四%から五・三%へ、食事介助は〇・五%から三・一%、入浴介助二六・六%が五十六・三%、排泄の便器

およびおむつ使用は五・〇%が二十四・二%へと増え、特に入浴介助や排泄で一部または全介助を要する方の割合が大きくなっています。認知症で見守りが必要な方や通院付き添いが必要な方も増えていきます。

このような要介護者の増加や介護保険加入状況などを踏まえた国の制度改正により、平成十八年度から養護老人ホーム利用者も介護保険サービスを利用できるようになりました。向陽苑も定員三十人の外部サービス利用型特定施設入居者生活介護事業所として指定を受け、同時に指定訪問介護事業所を設け向陽苑支援員は介護職員を兼務することとなりました。三十人の方の介護は介護保険に位置付けられた在宅介護サービスとなり、デイサービスは万陽苑など陽風園のデイサービス事業所を利用しています。現在、要介護度一以上の方は約六十人で、他にも要介護認定の可能性がある方がいます。特定施設定員増の検討も考えられる訳ですが、職員配置基準と介護報酬あるいは介護保険利用限度額との関係など研究・検討すべきことも多くあり、当面現状での分析を行いながら、他施設の状況や国の制度に関する動向等の情報も得て検討を進めていくことが必要であると

と考えています。

このほか利用者の高齢化に伴う変化としてクラブ活動等余暇活動参加の状況があります。やはり十年前と比較すると、クラブ・同好会の数は十七部で所属人員二百二十七名であったものが、十二部、所属人員七十四人に減っており、旅行や行事についても参加者が減少しているということです。中にはほとんど外出機会のない方もいます。

要因としては、高齢化に伴う体力低下や参加意欲の低下に加え、指導者確保の問題や職員が介護に手を取られ時間が取りにくい状況もあるでしょう。さらには、みんなで歩くより一人で散歩したいなど集団行動より個人行動志向の傾向、また、好みや価値観の多様化など、利用者の意識の変化による影響もあると思います。

季節の行事や旅行、手軽に楽しめるレクリエーション、ボランティアのご協力による歌や踊りを楽しむ機会などは、日常生活に彩りを添える大変大切なものです。このため、利用者の変化に合わせ、誰もが参加しやすく楽しめるよう、レクリエーション委員会が中心になり工夫をしています。今後も一層の充実のため、積極的な取り組みを期待している次第であります。

園 だ よ り

全国社会福祉協議会設立

一〇〇周年記念

特別表彰受賞

平成二十年十月六日に、天皇陛下ご臨席のもと、「全国社会福祉協議会設立一〇〇周年記念感謝の集い」が東京・霞が関の全社協・灘尾ホールで開かれ、奥理事長が出席しました。表彰式では、中央慈善協会の設立当初から会員だった四〇団体と、明治・大正期から現在に至るまで福祉施設を運営し続けてきた一九五団体に特別感謝状が贈られます。陽風園は明治六年からの長い社会福祉に対する功績が讃えられ、感謝状が贈呈されました。



災害時相互

応援協定調印式

十一月八日（土）午後二時から、内川公民館二階ホールで、当園と内川校下町会連合会との間の「災害時相互応援協定」の調印式が行われました。

近年、日本各地で風水害、地震等の自然災害が多発し、災害に対する危機管理体制の見直しが必要になっております。特に昨年三月の能登半島地震、先般金沢市浅野川豪雨では自然環境、人、建物に大きな被害があり、身近な災害に対する備えの大切さを改めて感じるようになりました。このような状況のなかで、今回の調印に至りました。当日は、当園からは、理事長、専務理事をはじめ第二万陽苑・第三万陽苑・ハビリポート若葉の各施設長、総務課長が出席し、内川校下町会連合会からは会長をはじめ各町会長、各種団体代表等総勢四十名ほどのご参加をいただきました。当園としては、崎浦地区に続く二例目の相互応援協定となりますが、これからも園の施設が所在する地域との連携を大切にしながら、相互理解・相互協力を推し進めていきたいと思っています。

施設 だ よ り

向陽苑

日本料理ボランティア

平成二十年九月十五日（月）、石川県日本調理技能士会（会長 兼見御亭統括料理長 榎本桂次様）の皆様による敬老の日「日本料理ボランティア」がありました。

午前十時半より盛り付け、配膳され、十一時半に理事長より挨拶、感謝状が贈られた後、会食となりました。



献立内容は次のとおりです。

●小鉢 利休豆腐

柚子味噌

●吸物 清汁仕立

蟹真丈、茸、鶏菜、

みじん三つ葉

●煮物 にしん柔らか煮

六方小芋、茄子阿蘭陀
隠元田舎煮、木の芽

●食事 五目ちらし寿司
海老、煮穴子、
金糸玉子、でんぶ、
グリーンピース、
平切り生姜



●デザート

抹茶ムース、メロン、
梨コンポート、巨峰

色彩鮮やかに丁寧に盛り付けられた会席料理を前に、どれから食べようかと迷う姿も。

「おいしかったわ」「来年もお願いね」という声も聞かれ、満足されたようでした。思い出に残る敬老の日となったようです。



施設だより

万陽苑

宇宙の旅を経て
帰ってきた折鶴

二〇〇五年五月、宇宙飛行士の土井隆雄さんが陽風園を訪問されました。そのご縁で、二〇〇八年に土井飛行士が宇宙へ行かれるということを知った万陽苑の利用者の方々は、自身のリハビリを兼ねて、土井飛行士が任務を全うされ、無事帰還されることを願い、千羽鶴を折り、贈りました。

その千羽鶴の中の一羽が、土井飛行士たちと共に今年の三月に打ち上げられた米スペースシャトルの「エンデバー」に搭載されました。

土井飛行士は、国際宇宙ステーション

に日本の実験棟「きぼう」の最初の部品を取り付けるなどの重要な任務



を果たされ、無重力で飛んだ折鶴と共に、無事宇宙の旅を経て帰還されました。

そして、今年の十月二十一日に土井飛行士は講演のため金沢市を来訪され、その際にエンデバ―で撮った折鶴の写真と、宇宙より帰ってきた折鶴を土井飛行士より受け取るため、利用者の林さんとさんが代表として金沢市役所へ出向きました。



土井飛行士は、林さんと固く握手をされ「元気で会えて、ありがとうございました」と感謝の言葉を述べられました。

受け取られた林さんは、「折鶴と共に無事帰還し、非常に嬉しいです」と話されておいでました。

今後の土井飛行士の活躍を、心からお祈り申し上げます。

木越デイサービスセンター

趣味を活かして

ある利用者Aさんは、詩吟や民謡が趣味だと話します。バッグにはいつも詩吟の本が入っており、空いた時間にはその本を見て勉強しているのです。

ある日、半ば無理やりに詩吟を披露してもらったのをきっかけに、Aさんの利用日には必ず詩吟を吟じてくれるようになりました。本人も「大きな声を出す事ができよかった」と話します。

いつも聴かせてくれる詩吟の中で皆が一斉に引き込まれたものがありました。それは「廣瀬中佐」という題で後に歌が続くものでした。日露戦争の話で利用者の皆さんは詩吟が始まるとため息がこぼれ、歌に入ると全員で合唱となりました。最後には拍手喝采、アンコールの声です。小学校時代に習った懐かしい思い出がよみがえり皆さんの表情が生き生きしてきました。

今では詩吟教室を開き生徒は職員を入れて十数名。Aさんは先生と呼ばれています。

8月

陽風園日誌

盆踊り

法話

美容ボランティア

第七代理事長墓参

地藏盆法要

誕生会・喫茶

介護ネットワーク委員会

(陽風園・第二万陽苑)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

(陽風園)

施設だより

第二万陽苑

めぐみ保育園来訪

平成二十年十月十五日、平和町・めぐみ保育園の園児たちの訪問がありました。毎年恒例になつてきたこの訪問も今年は十四名の可愛らしい皆さんが歌や踊りなどのお遊戯を披露して下さいました。演目は「とんぼのめがね」、「きのこ（園児達が振り付けを考えた）」「なべなべそこぬけ」、「おちゃらかはい」、「おはぎがお嫁に行く時は」、「サンサン体操」などがあり、最後は映画でもおなじみの「崖の上のポニョ」を軽快な歌と踊りで締めくくりました。

利用者の皆さんは園児たちの愛くるしい動きに相好を崩し、手拍子をしたり、一緒に口ずさんだりして、なかには涙を流して喜んでくれる方もおいででした。楽しい時間はあっという間に過ぎましたが、園児たちの躍動感あふれる歌や踊りから、会場にいた全員が元氣やパワーをもらったようです。

今後このような機会を作り積極的に地域交流を図っていきたいと思います。

第三万陽苑

内川小中学校との地域交流

昨年度より、地域交流の一環として、地元の内川小中学校に当苑のことをより身近に感じてもらうと、利用者の方々が日常の活動を通して創作した作品をはじめ、施設行事や生活の様子等を分かりやすくまとめたものを、年四回校舎内に掲示スペースを設けて頂き展示しています。

昨年度までは、施設から一方通行の交流だったのですが、今年度に入り、小中学校の生徒の作品を施設内に展示するスペースを設けました。小学校低学年の生徒達が来苑し、利用者の方々と交流を深め、作品を受けとることができました。子供達は、気恥しうでしたが、利用者の方々はその姿を見て「かわいね」と満



面の笑みを浮かべ、楽しいひとときを過ごせたようでした。



高齢化・少子化時代と言われる今、家庭の形態も昔とは違つて核家族が増え、子供達がお年寄りと身近にかかわる機会も少なくなつてきていると言えます。世代の違う人とかかわりの中で、思いやり、いたわり、礼儀はもろろんのこと、その他学ぶことも多々あるでしょう。その多くを学ぶ機会がなくなつてきている今だからこそ、今回の交流を意味あるものとし、今後も継続していきたいと思ひます。そして、校内の掲示を見たり、施設に訪問に来た子供たちが、これまで以上に施設を身近に感じ、さらには将来、互いに支え合う地域の一員となる事を願つて。

9月

敬老の日式典・記念講演 (陽風園)

吉村笑子歌謡ボランティア (陽風園)

金沢市消防技術競技大会 (陽風園)

法話 (陽風園)

誕生会・喫茶 (各施設)

敬老週間・模擬店 (老人四施設)

介護ネットワーク委員会 (特養三施設・診)

秋の旅 (向陽・三陽・若葉)

理容ボランティア (第二万・第三万)

福祉のつどい2008金沢

(三陽・若葉・あけぼの)

石川県障害者ふれあい

フェスティバル (若葉・あけぼの)

運動会 (めぐみ保育園)

未就園児とお父さんの遊びの会

(めぐみ保育園)

お茶会 (向陽苑)

敬老の日日本料理ボランティア (向陽苑)

ドライブ (第二万陽苑)

敬老茶話会 (第三万デイ)

菊川・つじが丘・十二屋・崎浦・

内川・大桑健康づくり教室

(地域福祉支援センター)

木越デイサービスセンター利用者

みずき保育園児との交流会

(木越デイ・みずき)

ウッドデッキで昼食会

敬老祭 (木越デイ)

施設だより

三陽ホーム

自治体主催「長寿を祝う会」

十月二十九日自治会主催の「長寿を祝う会」が行われました。自治会『双葉会』は、最近では行事の企画が主な活動内容になっており、毎月会費を積み、景品や間食等にあてています。今回の長寿を祝う会は、双葉会の新しい取り組みとして、今年初めて企画されました。当日、初めは恥ずかしそうに席に着いていた（長寿）対象者の方々も、記念品やお祝いのコメントをいただくことと自然と笑顔になり、会場は大いに盛り上がりました。

発足後十年を経過し、双葉会の活動は定着したように思えます。また今回のような、従来とは違った新しい取り組みが利用者の皆さんに受け入れられたことは嬉しく思います。今後、利用者が主体となつて活動出来るよう内容の充実を図っていききたいと思います。



ハビリポート若葉

障害者ふれあいフェスティバル

九月二十一日、石川県産業展示館にて、「石川県障害者ふれあいフェスティバル」が開催されました。この催しは、健全者も障害者も皆、誰もが参加でき、交流の場を設けようと企画されたものです。ハビリポート若葉からは、作品展示、模擬店出展（飲み物販売）、それに当日の催し物の見学と三つの形で参加しました。

作品展

示では、日中の創作活動やクラブ活動、また余暇時間を利用し時間をかけて一生懸命作り上げた詩集や絵画、編み物を出展しました。出展を知らせると皆大喜びで準備してくれました。当日は大勢の来場者が作品を見て下さり、見学に行った利用者からも、きれいに飾られてい



る作品を見て、「良くできていい」「きれいだ」と賛辞の声が上がりました。

催し物の見学では、初めて参加する利用者もいて、とても楽しみにしていました。会場へ着くと、その広さと来場者の多さにびっくりしていましたが、大きなステージを見つけると、すぐに興味が湧いた様です。太鼓や歌手によるコンサートなど華やかな演奏を見学することができ、感激していました。また、他の施設にいる友人や職員と出会い、久しぶりの会話を楽しむ利用者もいました。食事も賑やかな雰囲気の中でとることができ、模擬店に参加している職員を見つけると笑顔で「がんばってね」と声を掛けていました。

今日の障害者施策は、「自立」へと向かっています。これから、障害者が地域で安心して生活していくためにも、このふれあいフェスティバルは、障害者と健全者が互いに身近に感じあうことのできる貴重な場になったようです。

10月

千寿閣社交ダンス愛好会

演芸ボランティア(陽風園)

誕生会・喫茶

(各施設)

秋の旅

(各施設)

介護ネットワーク委員会

木越デイサービスセンター利用者と

みずき保育園児との交流会

(木越デイ・みずき)

衛生講座(向陽・三陽・あけぼの)

紅葉ドライブ(万陽デイ・第三万陽)

小野太三郎展見学(万陽デイ・三陽)

健康教室(木越デイ)

秋の大ゲーム大会(木越デイ)

菊川・つづじが丘・大桑・

内川健康づくり教室

(地域福祉支援センター)

めぐみ保育園来訪(第二万陽苑)

デザートバイキング(第二万陽苑)

いきいき健康支援(第三万陽苑)

北陸三県救護施設親善スポーツ大会

(三陽ホーム)

ハビリエンジョイピック

(ハビリポート若葉)

グラウンドゴルフ大会(若葉・あけぼの)

ほほえみスポーツフェスタ(あけぼの作業所)

めった汁パーティー(みずき保育園)

遠足・交通安全教室(みずき保育園)

施設だより

あけぼの作業所

秋の旅行

十月七日、毎年恒例の一泊二日秋の旅行が行われました。

一日目は、秋晴れの素晴らしい天候にも恵まれ、バスの中では皆さん楽しそうに旅行の話しながら名古屋に向かいました。名古屋では、水族館で色々な魚を見て回り楽しいひと時を過ごし、その後、当日の宿泊地西浦温泉「銀波荘」に向かいました。宿に着くやいなや早速温泉に入り、旅で疲れた身体を癒していました。温泉の後には、皆さん楽しみにしていた宴会でおいしい料理を味わいながら三河万歳を見たりカラオケを歌い盛り上がった夜を過ごしました。翌日は、エンターテイメントやショッピングなどが楽しめるラグーナ蒲郡のラグナシア、フエスティバルマーケットに行きました。十月という事もありハロウィン一色のなか、色々なアトラクションを楽しんだ後は、お待ちかねのお土産コーナーに行きました。どれにしようかとそれぞれ迷いながらも、その顔には笑顔があふれ、この旅行を十分に楽しんでたようです。

みずき保育園

キッズサポーター隊を

招いての

めった汁パーティー

十月十六日みずき保育園年長組四十五人が同園キッズサポーター隊と畑の世話をし下さっている方を招き、めった汁を振る舞いました。

園児は自分達で畑の土運びから苗植え、水やり、収穫までの全ての作業に携わり、収穫時には泥まみれになりながら夢中でさつま芋を掘り、大きさを競い合っていました。

当日も保育士と一緒に包丁を握り慎重に野菜を切ったり、竹輪やこんにやくを手でちぎってめった汁に挑戦しました。

園児はキッズサポーター隊の頃の巡回や畑の世話を下さっている方に感謝を込め、歌を披露したり、ゲームと一緒にしたあと食卓を囲み、みなさんと楽しい一時を過ごしました。



入園者の変動状況（8月～10月）

施設名	入園者数 (11月1日現在)	入 所	退 所
向 陽 苑	240	2	2
万 陽 苑	188	38	37
第二万陽苑	150	38	36
第三万陽苑	148	30	24
三陽ホーム	106	0	0
ハビリポート若葉	207	0	0
あけぼの作業所	40	1	1
みずき保育園	177	2	0
診 療 所	17	22	23
合 計	1,273	133	123

在宅サービス利用状況（8月～10月）

施設名	事 業	延人数
万 陽 苑	シ ョ ー ト ス テ イ	326
	デ イ サ ー ビ ス	922
	ホ ー ム ヘ ル プ サ ー ビ ス	332
	配 食 サ ー ビ ス	563
	移 送 入 浴 サ ー ビ ス	34
	居 宅 介 護 支 援 事 業	496
お年寄り地域福祉支援センター	予 防 プ ラ ン	979
	介 護 相 談	666
木 越	デ イ サ ー ビ ス	872
	居 宅 介 護 支 援 事 業	93
第二万陽苑	シ ョ ー ト ス テ イ	336
	ホ ー ム ヘ ル プ サ ー ビ ス	236
	居 宅 介 護 支 援 事 業	220
第三万陽苑	シ ョ ー ト ス テ イ	490
	デ イ サ ー ビ ス	663
	居 宅 介 護 支 援 事 業	195
ハビリポート若葉	シ ョ ー ト ス テ イ	24
	日 中 一 時 支 援	9

ふれあいのまちづくり事業活動

講 師 派 遣 日 数			
8月	9月	10月	計
0	1	0	1

感謝録

8月～10月

(順不同・敬称略)

ボランティア

- PL金沢南教会 (金沢市)
- 石川県退職公務員連盟 (金沢市)
- 石川県日本調理技能士会 (金沢市)
- 千寿閣社交ダンス愛好会 (金沢市)
- グループ810 (金沢市)
- カトレアの会 (金沢市)
- 小西グループ (白山市)
- ひだまりグループ (金沢市)
- ひまはりの会 (金沢市)
- めぐみ保育園 (金沢市)
- 葉月の会 (金沢市)
- 合歓の会 (金沢市)
- 三色すみれの会 (金沢市)
- 北都民謡会 (金沢市)
- 内川校下婦人会 (金沢市)

寄附物品の部

- 吉村 笑子 (金沢市) 安岡 龍男 (金沢市)
- 勝尾外美子 (金沢市) 川畑 翔史 (愛知県)
- 村尾 和子 (金沢市) 高窪千寿子 (金沢市)
- 朝倉 薫 (金沢市) 畠中万衣子 (金沢市)
- 松下真知子 (金沢市) 田中美紗子 (金沢市)
- 木村 紗里 (金沢市) 菱村 仁恵 (野々市町)
- 小川真有美 (金沢市) 荒間 知子 (金沢市)
- 千寿閣社交ダンス愛好会 (金沢市)
- 北野 喜行 (金沢市) 浦田 直子 (金沢市)
- 下農 洋子 (野々市町) 笠舞 貞男 (金沢市)
- 北川 猛 (白山市) 吉浜 勝利 (金沢市)
- 永井五十鈴 (能美市)

寄附金の部

- 丸谷富士夫 (埼玉県) 笠舞 充一 (堺市)
- 本田優美子 (金沢市) 山本 玲子 (金沢市)
- 西田 稔 (金沢市) 小高 邦 (金沢市)
- 新保外喜男 (金沢市) 東藤 登 (野々市町)
- 砺波 一雄 (金沢市) 藤井 綾子 (白山市)
- 難波 修 (金沢市) 森田優美子 (金沢市)
- 小野 陽子 (金沢市)

その他匿名 三十五名

ご厚意ありがとうございました。

